

平成 26 年 8 月 31 日発行

ゆきつばき通信

第 162 号

大町山岳博物館友の会



友の会が支える博物館

山岳博物館が公式 web サイトを開設したのは 1999 年（平成 11）2 月のことです。それから 15 年、ほかの博物館や美術館が Web サイトの充実を図るなか、山博 Web サイトのデザインは変わることはありませんでしたが、お伝えする内容は負けまいと、ほかではできない 3 階展望室からの北アルプスの風景や、付属園で飼育している動物の写真を毎日更新するなどしてきました。

友の会のページも設けさせていただきましたが、これらは所詮、素人の手作り。見せ方や伝え方に限界を感じるようになりました。もっと博物館や友の会の魅力や活動を伝えたい。それにはどうしたらよいのだろう。そんなことを職員間でも話し合うようになりました。また、欧米では博物館の創立記念や博物館が事業などに必要とするものを個人や企業、友の会が寄付をして、社会貢献を果たしているそうで、山博友の会が博物館を支援しているという関係を示すことができたのなら、友の会の社会的地位の向上や会員の友の会活動への関心をこれまで以上に高めていただけないかと考えました。

その気持ちを友の会運営部会でお伝えしたところ、まずは公式 Web サイトの支援で博物館活動を助けていただくこととなりました。平成 26 年 3 月 28 日。博物館リニューアルオープン前日の午後 5 時、ホームページ制作会社により制作された博物館の新たな公式 Web サイトが公開となりました。これは双方にとって大きな一歩であったと思います。大きな博物館や美術館を除き、地方の小さな博物館が財政難等危機的状況に陥る以外で友の会から寄付や支援を受けるケースはあまりないことだと思います。特に公式 Web サイトの開設・維持を友の会が行い、運用を博物館が行うというスタイルは日本ではとても珍しいケースなのではないでしょうか。

そのような関係については、Web サイトでも掲示してあるほか、刷新した博物館の封筒にも「市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。」と明示させていただき、友の会と博物館の密な関

係をアピールしております。

会員の皆様におかれましては、今後も博物館活動に興味関心をお寄せいただくとともに、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(市立大町山岳博物館学芸員 千葉悟志)

行事のご案内

「山と博物館」もご覧ください・・・・・・・・

【山岳博物館・友の会共催事業】

大町市制施行 60 周年・合併 10 年記念・「信州山の日」制定記念

【古道 塩の道を歩く ―大町宿―】

大町山岳博物館友の会では平成 19 年に日本海をスタートし、西回りコースによって北から南へ毎年リレー形式で千国街道「塩の道」をたどってきました。14 回目となる今年、ようやく大町市街地まで到達しました。リレー形式で行ってきた「塩の道を歩く」も、今年で一区切りとなります。

昨年度に続き、今年度も山岳博物館と友の会の共催事業として開催し、友の会会員のほか、大町市民にも広く参加していただける催しとして実施します。

今回は、大町市街地の「大町宿」周辺の約 3 km のコースを、往時の宿場町の様子を想像しながら講師といっしょに散策します。その後、これまでのまとめとして、「塩の道ちょうじや」で、塩の道の全体像について講師から解説を受けて館内を見学し、塩の道の歴史と民俗について学びます。

- 《期 日》 10 月 13 (月・祝) 午前 10 時～午後 3 時 ※雨天実施
- 《対 象》 小学生以上の会員・大町市民 20 名
※小学 3 年生以下は保護者と一緒に参加してください。先着順
- 《集 合》 午前 10 時 塩の道ちょうじや前
- 《解 散》 午後 3 時 同 上
- 《コ ー ス》 「塩の道ちょうじや」集合・出発(徒歩) → 高札場跡
→ 創舎わちがい → 庚申道標・大黒天 → 弾誓寺 → 天正寺
→ 「塩の道ちょうじや」到着(昼食)
「塩の道ちょうじや」にて解説・見学後、解散
- 《講 師》 相澤亮平さん(元大町市文化財センター文化財指導員)
- 《参 加 費》 会員：大人 500 円(非会員 1,500 円)
小・中学生無料(非会員 500 円) ※保険代含む

《持ち物》 昼食、飲み物、雨具、筆記用具、そのほか各自必要なもの

《申し込み》 10月7日（火）までに電話・FAXまたは直接、友の会事務局へ
（Tel/Fax0261-23-6334）

※定員になり次第締め切ります。10月7日（火）以降、都合によりキャンセルする場合は、保険料 500 円／1人をお支払いいただきます。なお、参加者を早めに確定したいため、「〇〇の場合は不参加」といった条件付きでの申し込みはお受けできませんのでご了承ください。

※下見の結果によっては、コースが多少変更になる場合があります。

【運営スタッフ】（山岳博物館 関・清水隆 友の会 西沢・宮田）

【市立大町山岳博物館主催行事のご案内】

◎特別展「日本山岳画協会展 大町展」

期間中、第1部「日本の山、世界の山」（7月19日～9月15日）、第2部「北アルプスを中心とした山岳画」（9月17日～11月24日）の2部構成で開催いたします。

〈開催日〉 7月19日（土）～11月24日（月・祝）（7月8月は無休ですが、9月以降は毎週月曜日、祝日の翌日が休館となります（月曜が祝日の場合は開館、翌日休館））

〈場所〉 大町山岳博物館

○中部山岳国立公園制定 80 周年記念・大町市制 60 周年記念・合併 10 年記念

日本山岳画協会展 大町展 ギャラリートーク

特別展「日本山岳画協会展 大町展」の開催に伴い、協会員によるギャラリートークを開催します。

〈開催日〉 9月14日（日）/10月12日（日）・26日（日）

〈開催時間〉 午前の部 10時30分～・午後の部 2時～

〈場所〉 大町山岳博物館

〈対象〉 どなたでも（年齢制限なし）定員なし

〈申し込み〉 不要です。当日、時間までにお越しください。

〈費用〉 無料（一般は入館料が必要です）

○展示スポット解説

3月29日に展示替えをしました新しい常設展示について、各展示コーナーの具体的な展示資料の説明や、展示のみどころを学芸員が解説します。解説する展示コーナーは「山と人」です。

- 〈開催日〉 11月1日(土)・2日(日)3日(日月・祝)
〈開催時間〉 1回目 午前11時30分～・2回目 午後3時30分～
〈場 所〉 大町山岳博物館
〈対 象〉 どなたでも(年齢制限なし) 定員なし
〈申し込み〉 不要です。当日、時間までにお越しください。
〈費 用〉 無料(一般は入館料が必要です)

イベント

○信濃大町山岳フェスティバル2014

主催：信濃大町山岳フェスティバル実行委員会

「山」「森林」「水」と様々な資源から得られる「恵み」は、私たちの暮らしに欠かせない財産であり、その代表である「北アルプス」一帯には多くの観光・登山客が訪れます。「信濃大町山岳フェスティバル2014」では、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくとする「信州山の日」制定の趣旨に基づき開催するものです。

<日 時>：平成26年9月13日(土)～15日(月、祝)

<会 場>：大町公園・長野県山岳総合センター・大町山岳博物館 ほか

13日(土) 三四六・なるみトークショー、ジャズライブ、ゴスペルライブなど
山博関係では、スポットガイドツアー、さんぱくクイズラリー、どうぶつスタンプラリーを実施

14日(日) 三浦豪太講演会「オリンピックからエベレストへ」(18:00～ アブロード3F)

※15日の三浦豪太と歩く鍬の峰トレッキングは募集を終了しました。

詳しくは、実行委員会事務局(大町市観光課内 TEL.0261-22-0420(内線562))までお問い合わせください。

オフィシャル Web サイト <http://www2.hp-ez.com/hp/omachi-yamafes/page1>

ご注意!!! 一般車両通行止

「信濃大町山岳フェスティバル2014」開催にともなう交通規制のお知らせ

フェスティバル開催につき、下記の日時に交通規制が生じます。このため、一般車両の博物館までの通行ができませんので、ご注意ください。フェスティバル参加、また博物館へお越しの客様は、恐れ入りますが、大町市役所駐車場をご利用いただき、シャトルバス(無料 9:30～16:00)でお越しください。シャトルバスは博物館～市役所間での乗降もできますので、市内駐車場のご利用も可能です。できれば徒歩でお越しください。

報 告

【山岳博物館・友の会共催事業】
大町市制施行 60 周年・合併 10 年記念・「信州山の日」制定記念
大峰山地の自然なぞ解き トレッキングツアー

平成 26 年 7 月 21 日（祝、月）開催 参加者 23 名（内、一般 14 名）

今年は「信州 山の日」が制定された記念の年。加えて大町市制施行 60 周年・合併 10 周年記念も重なり、山と親しむ重点事業として、大町山岳博物館と友の会の主催により、大峰山地を舞台に平成 26 年 7 月 21 日（月・祝）にトレッキングツアーを行いました。

大町市民にとって鷹狩山は山頂の展望台から望む雄大な北アルプスの景観と故郷を一望できる大切な場所であり、友の会の皆さんにとっては毎年行なわれていた春の探鳥会の思い出の地です。今回のトレッキングツアーは、そんな日頃から慣れ親しんだ鷹狩山を含む大峰山地について、いつもとは違う切り口で学ぶことで、故郷の山を見直す機会になればと計画してみました。



大峰山地なぞ解きの切り口の一つとして、大峰山地誕生のなぞを解くカギになる巨大な山砂利や地層が確認できる露頭や地形を探ることから始まり、その地に生息する植物の特徴から山全体を覆う森林のなぞへと目が向けられました。また、この大峰山地とともに生きた先人達の足跡である、鷹狩山山頂に建てられた神社や、山ふところにひっそ



りとたたずむ寺院、数多くの縄文時代からの人々の暮らした遺跡は、山と共に寄り添いながら生活し、心のよりどころとして山を大切に守り伝えてきたことを感じさせてくれました。現代に生きる私たちが先人達から引き継ぐべき志も垣間見えてきました。

遠くから眺める山ではなく、実際に自分の脚で歩いてこそ見つけられる山には新たな知識や疑問があることを実感として感じ取ることができます。これ以外にも様々な切り口から故郷の山を見つめる糸口を発見してみてください。今回のトレッキングがそんなきっかけづくりとなりましたら幸いです。

また、みんなで山の秘密を解き明かしに行きましょう。



【運営スタッフ】（山岳博物館 清水隆・千葉・小坂 友の会 宮澤・塩瀬）

烏帽子の会活動報告

上田 虚空蔵山 (1077m)

《月日》7月6日(日) 《天気》晴れ 《参加者》12名

《コースタイム》

7:45 松川道の駅集合 7:50発-(トイレ5)-9:30林道下到着 9:35発-
9:55座魔神社(休10) 10:05発-10:25ベンチ(休10) 10:35発-11:20
段々岩(休5) 11:25発-12:10山頂着(昼食45) 12:55下山開始-13:
35段々岩(休10)-14:20神社(休10) 14:30発-15:00林道下着-15:1
0乗車-15:30鹿教湯-15:40~16:30文殊の湯-16:40駐車場発-17:3
0松川道の駅着

《コース状況・その他周辺情報》

初めに予定した「勝負平林道コース」は、崩落箇所があるとの情報により、「座魔神社コース」に変更。急登気味なのと雨のあとで滑りやすく、マイマイガの毛虫のお出迎えで気の抜けない歩きとなりました。ロープの岩場は一人ずつ慎重に通過。下見時に何か見るべきものはないかと発見!した「カモシカとっこ」や山頂近くから現れた花はイブキジャコウソウ・エゾカワラナデシコ・オカトラノオ。特にノイバラの香りと数種類の蝶たちの乱舞は、狭い頂上を心地よい楽園にしていました。お目当ての「ナンジャモンジャ」よっと残念でした。



お揃いのTシャツ

《感想》

下見の不十分さで登山口までスムーズに行けず、申し訳なかったです。梅雨どきで心配されたお天気も晴れて幸いでした。み~んな日頃の心掛けがよかったのですね。



下りで、滑落・転び・滑り・踏み抜きのアクシデントがあり、ヒヤリとしました。

4名とも怪我はなかったものの、下山時に慎重に下るべく全員で注意と確認をすべき

だったと反省しました。当初の予定よりコースタイムが長くなった割には、全体に遅れることもなく、温泉もゆっくり入ることができました。ありがとうございました。

担当 仙波

☆次回烏帽子の会（9月例会） 重要文化財 牛伏川源流階段水路工

牛伏川（うしぶせがわ）階段工は昨年、国の重要文化財になった歴史的近代建造物です。源流一帯には階段工はじめ明治の土木治山工事の跡が広大に広がって、現在も立派に機能しています。今回は9月15日（月・祝日）に先人の行った偉業を見ながら「鉢伏山への登山コース」を車道出合いまで歩きます。

詳しくはサークル（友の会事務局）までお問い合わせください。

サークル・花めぐり紀行（報告）

ササユリ群生地をめぐる 6月28日（土） 7名

今回の目的は、ササユリの花の鑑賞とし、それらがどのような環境に生え、花や葉の色、形の違いや、訪れる昆虫の痕跡から、大北地域の自生地と比較し、里地里山の環境について考えることとしました。

岐阜県には長野県内には見られないほどの大きな自生地がいくつかありますが、この度は、岐阜県高山市荘川町にある「北野農村公園」での観察会としました。



当日は、曇りで、気温は20℃前後と涼しいなかでの観覧会となりました。ササユリはちょうど見ごろを迎えていて、斜面を中心にたくさんのササユリを見ることができ、やや濃い紅色、桃色、白色に近い花色が見られ、大北地域のササユリの花色とよく似ているように感じました。

植生高は70cmほどで、イネ科植物が中心の草原状態が保たれていて、刈取りによる管理が行き届いているように見受けられました。

一方、刈取りがあまりされていない場所でしょうか、そのような場所では、低木が生い茂り、ササユリの開花個体もほとんど見られず、ササユリが人の管理してきた環境と結びつきが強いことを改めて感じました。

（報告：板橋和子）

北ドブ・南ドブ湿原をめぐる 8月3日（日） 7名

今回の目的は、木島平村カヤの平高原の夏の湿原をめぐり、大北地域の湿原との様相を比較して共通点や違いを考えてみることにしました。

当日の天候は、晴れから曇りでした。湿原に至る間の林道は、ブナ林のなかにあり、ダケカンパとシラカンパが隣同士に林立している珍しい光景も見られました。

湿原は、西ルート・東ルートの分岐点（五差路）の先にあるくだりの林道の先に広がっていました。

当日の開花植物は、オタカラコウ、マルバダケブキ、コオニユリ、サワオトギリ、モウセンゴケ、ミズギク、ワレモコウ、ゼンテイカ（ニッコウキスゲ）、ジャコウソウ、ヨツバヒヨドリ、オニシモツケ、バイケイソウ、ヤナギランなどでした。ゼンテイカやマルバダケブキ、オニシモツケなどの生育が、高標高地にある湿原という印象を与え、居谷里湿原や親海湿原とは様相が異なる感じを受けました。また、ミズギクは、大北地域では見かけない植物でしたので、今回の花めぐりも、とても良い勉強になりました。



（報告：細川武子）

（山博ホームページでの報告もご覧ください）

ボランティアサークル便り

ボランティアサークルでは、6月は博物館倉庫の清掃・整理（開館以来の大掃除？）、7、8月は館周辺や植物園、サクラソウの鉢の除草等を行いました。また、山と博物館の封入・発送準備をあわせて行っています。

今後も毎月第4日曜日に草取り作業等を行います（次回 9/28 9:00～）。また、団体の館内案内や信濃大町山岳フェスティバル 2014 でのお手伝いを予定しています。なお、活動にはサークル登録（保険加入）が必要になります。

ボラ広報：丸山優子

ボランティア研修案内

富山市 ファミリーパーク～岩瀬北前船廻船問屋

山博ボランティアサークルではメンバーの知見を深め、解説スキルを向上させるためボランティア研修を行っています。今回は、富山市ファミリーパークと富山市岩瀬地区のボランティアガイドによる町並み案内を研修します。

ファミリーパークはスバルバルライチョウを飼育するほか、市民のボランティア

活動により自然体験活動や里山整備が行われています。岩瀬地区は北前船の間屋の建造物を中心に町並み復元保全などが行われており、地元のボランティアによりガイド活動が行われています。ボランティア登録メンバーに限らず、ボランティア活動に興味のある方、今後参加してみたい方のご参加をお待ちしています。

参考ページ <http://www.info-toyama.com/guide/70002/>

- 日 時：平成 26 年 10 月 25 日（土）
- 集合時間・場所：大町市役所（6：50）
<コース>
大町市役所 7:00 —（富山西 I C 経由）— 10:00（9 時開園）富山市ファミリーパーク 12:00
— 12:30 岩瀬カナル会館（TEL.076-438-8446 お土産 食事） 13:30 富山市岩瀬地区ガイド散策 15:00 富山ライトレール・ポートラム（東岩瀬 15:21—15:24 岩瀬浜 200 円 15 分毎 約 1 km） 岩瀬カナル会館 15:30 —（滑川 I C 経由）— 18:30 大町市役所
- 募集人員：25 人
- 参加費：大人 5,000 円 小中学生 2,500 円 予定
- 持ち物：筆記具、昼食（食堂・コンビニあり）、雨具、防寒着、飲み物、行動食等
- 申し込み：9 月のボランティア活動までに申し込み下さい
友の会事務局または担当・丸山卓哉（090-1217-9197）まで

山博展示改装 解説ボランティアガイド録音より 2

2 階地質展示について（解説：小坂専門員）

2 階の南半分は地質のコーナーになります。このコーナーの名前は「山の成り立ち—北アルプスができるまで」となっています。展示改修のポイントのひとつとして、3 階で見ていただいたきれいな後立山連峰の山々が、単に景色がきれいだというだけに終わってはもったいないと考え、あの山々がいつごろどのようにしてできたのか、どんな石でできているのかといったことにも興味を持ってもらいたいと考えました。

大人もたくさん見えるが、地元の小中学生、子供さんたちも大勢来られるので、自分たちが住んでいる、生まれ育った町の目の前にそびえる山の生い立ちを、大地の成り立ちに少しでも興味を持ってもらう機会になればと思い、石とか化石を並べるのも良いかと思いました。

もちろん展示改修前にも化石や岩石の展示がここにはありましたが、もう少しやさしくわかりやすくした方が良くと思って展示をそろえました。その石も、標本としてケースの中に入れてしまうと見るだけで触れないので、今回は全部さわれるようにして、「触っておでこにくっつけば頭が良くなる」なんて子供達に話しても良いでしょう。

アンモナイト：アンモナイトという中生代を代表する化石でイカやタコの仲間です。今のイカやタコの仲間につながっている古い時代の生物です。これは象徴展示として、ど真ん中に置きました。難しいことを学んでほしいというわけではなく、「こんな大きな生き物が何億年前には居たんだ」と思って触ってもらえればよいと思います。

このコーナーの地質関係は 3 つのコーナーに分けてあります。

「水の惑星・地球 46 億年の生い立ち」

ひとつはパネルに絵と文字で展示してありますが、「水の惑星・地球 46 億年の生い立ち」というタイトルがついています。地球は誕生してこれまでに 46 億年が経ったといわれています。この 46 億年の間に地球の様子はたいへん変わってきました。現在の大町を含めた地球の様子、きれいな山々を見てそこまで頭をめぐらすのは難しいかもしれませんが、これも 46 億年かかってここまで来たのだと、ものすごい時間がかかっているのだと感じてもらえればと思います。

これ（窓と反対の壁側の展示）は、大町の石ではなく世界各地で採れる古い時代から最近までの化石が並んでいます。サンヨウチュウ（三葉虫[古生代]）、アンモナイト[古生代～中生代]もあるし、新生代のマンモスの歯があつたりとか、すべてではありませんが、それぞれの時代を彩った代表する化石が並んでいます。これもすべて触って見てもらえるようになっています。話には聞いたし、写真でも見たけれど、実際に触って見る機会はなかなかないと思います。フズリナは古い単細胞生物で古生代を代表する化石です。チョッカクガイ（直角貝）[古生代・オルドビス期]はやはりイカ・タコの仲間で、丸まってくるとアンモナイトにつながってくる、アンモナイトの祖先型です。アンモナイトは全体に身が入っているのではなく、中は多くの部屋[隔壁]に分かれていて、身体は一番入口の部屋にあります。糞の化石があります。糞の化石が恐竜の骨の化石などといっしょに出てきます。草食竜か肉食竜か、草食動物の糞は乾くとパサパサして砕けてしましますが、これは固まっているので、雑食もしくは肉食のもの糞と見られます。

千曲川の川底から採取されたアケボノゾウの歯の化石があります。アケボノゾウは日本固有のゾウです。ナウマンゾウ、マンモスの歯の化石もあります。ゾウは進化してアフリカゾウやアジアゾウになっていますが、どこが違うかという、時代ごとに、種類ごとに、歯が大きく違ってきます。マンモスがなくなったのは人が獲りすぎたからだろうか。1 万年ほど昔、ナウマンゾウを狩っていた人がいたかどうか野尻湖の発掘が目指すところです。石器や骨器が発掘されるから、ナウマンゾウを狩っていた人がいたのではないかと考えます。もちろん化石も探していますが、その人の骨や足跡が見つければと、発掘を続けています。それが見つければ、ゾウ狩をしていた人が日本列島にどこから来たかといったことがわかってきます。

3 階のものとは違った人工衛星からの写真も展示してあります。

「驚きのフォッサマグナ」

フォッサマグナを作っている石が一部ですが展示してあります。大町の周辺がどのように変わってきたかが説明されています。海が、近くにあったものが、日本海の方にだんだん退いていっています。美麻で採れた海の貝の化石が置いてあります。

「驚きの北アルプス」

先ほどもお話ししたように、あの山がどうしてできたか、という疑問に答えるコーナーです。説明は映像にも流しています。北アルプスが 200 万年くらい前から今日まで隆起しながら今の様な姿になったという物語です。蓮華とか爺ヶ岳を作っている岩石は溶結凝灰岩で、白沢天狗を作っているのは棒のような形をした溶結凝灰岩で、地元では矢沢石と言っています。上原遺跡で立てられているものがこの石です。

原山先生の考え方では、大町の北アルプスは回転しながら隆起したとしています。その根拠のひとつとして、白沢コル、爺ヶ岳の南峰と中央峰の間の鞍部に次のようなものが見つかっています。爺ヶ岳や蓮華岳を作っている岩石は、火山のカルデラの中にたまった火砕流堆積物で、主に火山から噴き出したものが固まってできています[溶結凝灰岩]。それといっしょにカルデラのくぼみの水の中に堆積した地層[爺ヶ岳水成層・凝灰岩]が見つかっています。水の中にたまった地

層は元々水平で、これが白沢コルでは垂直近くになっているので、たまたまこだけ垂直になったのではなくて、山全体が回転しながら[傾きながら]水平だったものが押し上げられていった、回転しながら隆起したと考えたわけです。100 万年くらいかけてのことです。矢沢石もその周辺にあったものです。さらに、槍ヶ岳や穂高岳も同様にできたと考えられています。槍ヶ岳の石は火山の石です[槍ヶ岳自体は火山ではなく、火山からの噴出物が固まったものが削られて今の山容になっている という意味]。北アルプスの鹿島槍ヶ岳から穂高岳までが隆起しながら傾いてできてきたという、数十万年前からのお話です。

その隆起の過程で、いろいろなことが起きました。そのひとつは、山は高くなると頭をたたかれるということです[浸食が激しくなる]。そのため、たくさんの礫が山から供給され、今はダムができたからそれほど洪水になることはありませんが、高瀬川は過去から最近まで繰り返し多くの土砂を押し出してきました。それで扇状地地形ができました。扇状地ができるということは、大きな洪水があった、土石流があったということで、土石流は巨大な礫を運びました。そんな巨大な礫が大町の街の下を掘るとたくさん出てきますし、博物館のあたりからも出てきます。三日町の土取場にも大きな礫がいっぱいあります。山の子村にも大きなまるい礫があります。みんな[東山の地質のものではなく]アルプス側の石です。そんな巨大な礫が西から運ばれて東山にあります。それはどうしてかという、ものすごい土石流が大小の礫を運んできて小さなものはまた流され移動して、大きなものだけが残っているというわけです。なぜそんな高いところに高瀬川の礫があるかという、活断層が関係してきます。山博の直下には活断層があります。活断層が時々いたずら[活動]すると東側がぐんと上がります。数十万年かけるとそれが 100m、200m と高くなっていきます。そのようにして、アルプス側も[大町の西側にある断層の活動によって]高くなりました。

ゆきつばき通信編集室より _____

秋の行事のご案内になります。塩の道もいよいよ最終回（今のシリーズとして）になります。昔の人もたぶん大町に着いて一段落だったでしょう。今回、歩く距離は短いですが、総括の学習も行います。

そろそろ次年度の行事の策定時期に入ります。ぜひ皆様のご希望をお聞かせいただければと思います。メールの場合は、sanpaku@city.omachi.nagano.jp へ。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第 162号

発行／大町山岳博物館友の会 平成 26 年 8 月 31 日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

山博ページ <http://www.omachi-sanpaku.com/>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています